

集まれ！こたけプレーパーク

～あそびで育む子どもたちの創造力～

小竹町 小竹町教育委員会【公立公民館】

教育課社会教育係 主事 西村 太樹
地域活動指導員 萬田 美代子

1. 事業名

こたけプレーパーク

2. 事業の目的

子どもたちが将来、より良く生き、より良い社会を創っていけるよう、また、自分たちでしっかりと考え、行動できる人になれるよう体験活動をとおして、仲間と共に多くのことを感じ、感性・社会性・創造性を育むことを目的とする。

3. 事業の実施主体

小竹町教育委員会

4. 実施に至る経緯

現代の子どもたちは、学校の授業以外にも塾や習い事などで大人たちよりも忙しいと言われており、外で遊ぶ機会が少なくなっています。そんな子どもたちに自然体験や動植物とふれあう機会を与え、学校の授業や普段の生活ではできないようなことを体験させてあげたいという思いから、平成26年度から実施しています。

5. プログラム作成の視点

こたけプレーパークは、子どもたちの無限の力を信じて自由な発想と感性にまかせ、何事も強制せずに色々なことにチャレンジさせ、大人たちはそれを見守るという共通意識のもと実施しています。当初は活動場所を「昭和の森公園」を中心に事業を実施していましたが、子どもたちにもっと多種多様な体験をとおして、さまざまなことを感じてもらいたいという思いから、昭和の森公園以外の場所も活用し、年々活動範囲を広げてきました。

6. 事業の内容

参加対象は未就学児から小学校6年生までとし、未就学児は保護者の同伴を必要としています。毎年6月から開始し、月1回を活動の目安としています。参加に必要な手続きとして事前登録制を採っており、申し込みの際には保護者の氏名や連絡先を確認しています。

募集方法としては、小竹町には3小学校と1認定こども園（幼保連携型）があります。年度初めに年間スケジュールを記載したチラシを各小学校及びこども園に配布し、参加者を募集しています。

(1) さつまいもの栽培

「食育」をテーマに、自分たちが普段食べているものが出来上がるまでの過程や大切さを知ってもらうため、中央公民館の敷地内にある菜園を利用し、さつまいもの苗を植えました。参加した子どもたちは畝作りから体験しました。クワを初めて使う子がほとんどですが、重そうに抱えながらも、さつまいもが大きく育つようと頑張って土を耕していました。

畑作りの指導には講師のほか、地域のボランティアの方々に協力を頂き、世代間の交流を深めながら楽しく苗の植え方を教わりました。

その後、秋も深まる10月に入り、初回のプレーパークで植えた苗は立派に成長し、ついに収穫の時期を迎えました。今回も地域のボランティアの方々の協力のもと、さつまいもという宝探しが始まりました。園芸用スコップで懸命に土を掘り、中には自分の顔ほどもあるさつまいもを掘り出した子もいました。採れたさつまいもはその場で火を起こし、焼き芋にしてみんなでおいしく食べました。



(2) グラウンドゴルフと凧揚げ体験

子どもたちに自然の中でのびのびと遊ぶことができるように、町内にある自然農園の協力を受けて、見晴らしの良い山の上でグラウンドゴルフを実施しました。

草地ということに加えて、前日に降った雨で地面が濡れていたため、思わぬ方向に球が転がることもありましたが、友達とスコアを競い合いながら楽しく各コースを周りました。

また、グラウンドゴルフの後には、みんなで凧を手作りし、丘の上で凧揚げをしました。普段では走り回って遊ぶことの少ない子どもたちは、気持ちよい風の中、どんどん上がっていく凧におおはしゃぎしていました。

このようなプレーパークを実施する場所を提供して頂ける地元企業の協力のおかげもあり、子どもたちにとって貴重な体験の場となりました。地域で手を携えて子どもたちを育てるという環境が生まれつつあることを感じた瞬間でもありました。



(3) ビオトープ観察

メダカやタガメなど、川で見かけることも少なくなかったことから、遠賀川水辺館を訪問し、ビオトープを形成した小川で水生生物を採集しました。

水辺館の職員の方が魚や昆虫たちの解説をすると、子どもたちは熱心に耳を傾けていました。



(4) 昆虫採集

外で遊ぶきっかけづくりになればと、昆虫採集を企画しました。あいにく天気は雨でしたが、虫たちも動きが鈍るため、小さな子どもでも簡単に捕まえることができました。

中央公民館周辺を散策しながら草笛を作ったり、植物などの解説に対し、初めて見聞きしたりする内容に子どもたちは興味津々でした。



7. 事業の成果

日常ではおよそ経験しないであろう様々なことにチャレンジしてきました。子どもたちは柔軟な創造力・発想力で初めてのことにも物怖じすることなく取り組み、達成していきました。大人たちはそれをやさしく見守り、努力を称え、失敗したことについてはどうすれば良かったのか一緒に考えることで、子どもたちが持つ個性を伸ばしてきました。

この成功体験は将来、子どもたちが新たな時代を築き上げる一員として社会に出ていく上で大事な、「失敗を恐れず、新たなものを生み出す創造力」につながっていくと確信しています。

8. 今後の課題

今後は公民館の役割のひとつである「結ぶ」ことについて、今よりもっと地域とのつながりを意識した事業計画が必要だと感じています。公民館だけでできることは選択肢が限られてきますが、地域の名人にプレーパークの先生として参加してもらうなど、地域ぐるみで子どもたちの教育に関わっていけるような地盤作りを積極的に行なっていき、その協力が得られれば、これまでできなかったような規模の事業も可能なのではないかと思います。

問合せ先

〒820-1103 鞍手郡小竹町大字勝野 1757 番地

小竹町教育委員会教育課社会教育係

TEL:09496-2-0452 FAX:09496-2-6899 E-mail: chukou@trust.ocn.ne.jp